

十一月三日

昨夜は久し振りに富永譲に会った。世田谷に帰ると日本女子大
学住居学科の学生が何人かいて富永ゼミの最中だった。我家でゼ
ミとは光栄である。次女が富永ゼミで指導いただいているので御
礼方々近くのソバ屋末柳で食事した。

熊本アートポリスでのとんでもなかった苦勞話など聞く。皆
それぞれの苦難を乗り越えているのがわかる。しかし富永はいい
顔になっていたのに驚いた。難局災難は人を育てると言うが全く
その通りだと。イイ酒飲んでる富永の顔を見ながら感嘆した。

アートポリスのコトで五年くらい遠回りしてしまった。でもコル
ビュジェも戦争の時はほとんど仕事してない、休んでたんだと教
えてくれた。休まないで長生きできないよ全く。私の場合は余り
にも難局対面回数が多過ぎて苦勞というものにマヒしてしまっ
た感がある。イイ格好するんじゃないけど苦勞を苦勞と思えぬ鈍感
さが身についてしまっている。苦勞ブランドのパンツをはいてい
るようなもんだ。マア冷静に考えてみれば、わざわざ難局を呼び
よせている風もある。こんな事自慢したつてしようがないけどさ。
富永は要するに品がいい。建築家は特に下品な奴や下品なオバ
サンが多いからその品の良さは際立っている。横さんと近かつた
から、立居振舞いが似てきたんだらう。俺は逆立ちしたつてああ
はなれないね。

スタジオボイス十二月号に中里和人の世田谷村が掲載されてい

て、やっぱりG Aの写真とはちがう。駐車場のヘイを中里は乗り
越えて撮っていたから、南の野菜畑のネギの群が前に入って、非
常に感じのイイものになっている。小屋の力を再発見した中里の
眼が世田谷村にも働いたのだ。これから先も世田谷村の取材は続
くだろうから、写真家の世田谷村コレクションを作ってみよう。
藤塚流、中里流とかね。

今日は夕方高崎に行く。中川武先生が地元の人たちと仕掛けて
いるシンポジウムのため。国民文化祭の一環だと言う。どっちが
ついでもわからぬが前橋の元左官大将森田兼次さんと久し振りに
会えるだろう。それが楽しみである。

ツリーハウス、ヘレン・ケラー記念塔、星の子愛児園、ひろし
まハウス、聖徳寺。五部作を一つのプロジェクトとして早急にま
とめてみる。義手、義足の研究とこのプロジェクトは何処かで合
体する筈だ。

六時半高崎ホテルメトロポリタン。森田さんと会えた。中川武
先生とも合流して群馬県の方々と会食。

十一月四日

午前中井上邸見学。井上房一郎氏の孫井上健太郎氏に会う。房
一郎さんのこと、その他面白い話を色々とうかがえた。田中角栄
も井上房一郎のところまで土建屋修業していたのだそうで、高崎観
音建設現場のことなどとしていたらしい。そんなこともあり新幹線
高崎決定には角栄の力が働いただろうとも洩れ聞いた。そんな話
を聞いているとアントニン・レイモンド設計の井上邸が生き生き
してくるのだった。レイモンドの井上邸は日本ではない。日本的
なものでもない。一種のドライな合理主義が底に流れていて、そ
れは井上房一郎氏の持っていたものではあるまいか。

昼、そばきりで昼食。磯崎新が指定した店で、井上房一郎がそば好きで、藤岡にあった店を高崎に引越させたものと聞く。鈴木博之、隈研吾、中川武そして磯崎新。少々酒も入っておいしいそばをいただく。

午後シンポジウム。超満員で立見の方が多いくらいの盛況であった。宮脇愛子さんが自身の群馬近代美術館での展覧会のオープニングで来られていた。終了後、宮脇愛子展オープニングレセプション。新幹線で帰る。

十一月五日

開放系技術レクチャーメモ作り。明日からのA3ワークショップのためのノートを作る。